

チェロ科創設70周年記念

第26回スズキ・メソッド チェロ全国大会

カザルスのDNAを受け継いだ
スズキ・チェロ・パワーをお届けします!!



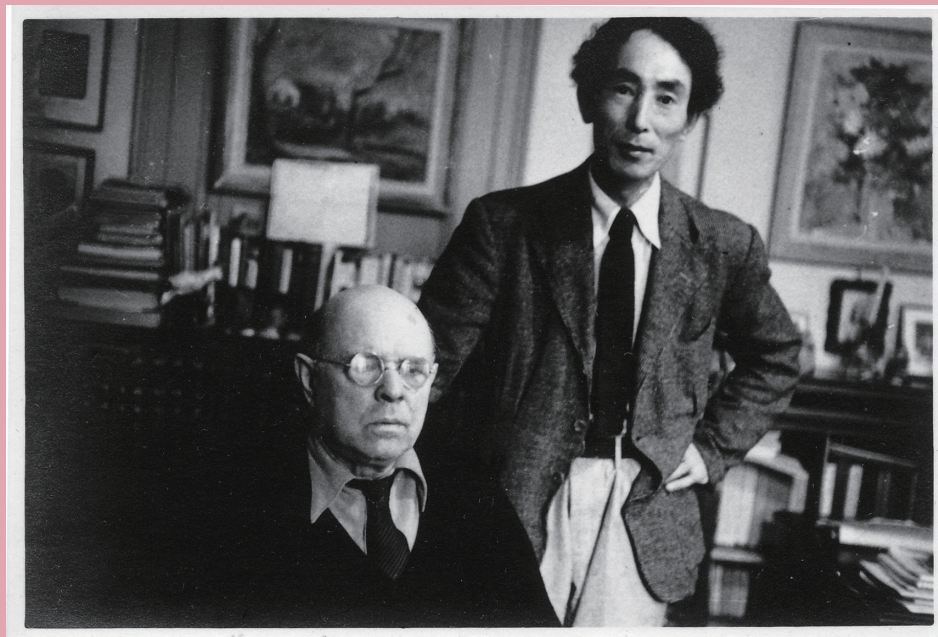
2025 **4.6** (日)

開場 **13:00**

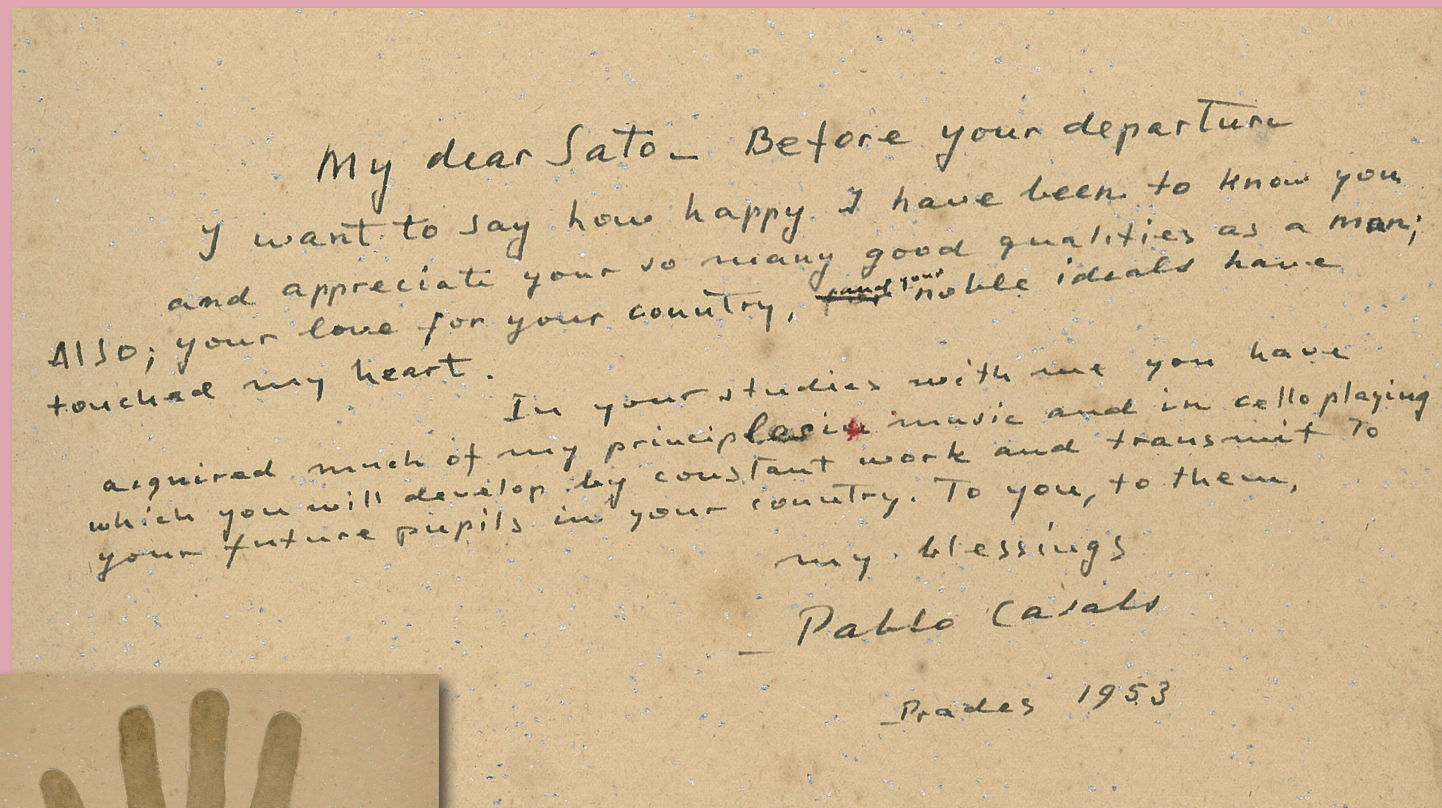
開演 **13:30**

文京シビックホール大ホール

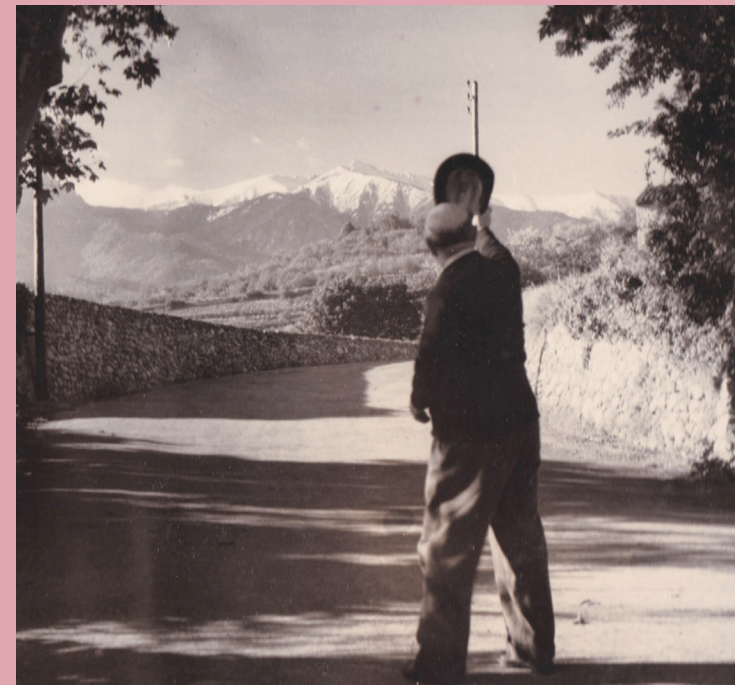
70年のつながり、未来につなげよう！



カザルスのもとで2年半、直接に薫陶を受けられた佐藤良雄先生。この時の教えがスズキ・メソードチェロ科のDNAとして、今に続く源となりました（1952年南仏のブラード、カザルスの自宅にて）



「親愛なる佐藤へ」佐藤良雄先生が、1953年末の帰国を前に、師カザルスから贈られた色紙に記された手形（左）の裏面には、素敵なメッセージが書き添えられていました。
「あなたと知り合えたことをいかに嬉しく思っているか、そして、あなたが持つ多くの素晴らしい資質を、どれほど高く評価しているかを、日本に帰る前にあなたに伝えたいと思います。そして、あなたの国への愛と崇高な理想は、私の心に深く刻まれました。私のもとで学んだことで、あなたは私の音楽に対する理念やチェロ演奏の多くを習得しました。あなたの国の未来の生徒たちに、私の音楽とチェロの演奏の真理を伝えたいことを嬉しく思う」
と書かれています。奮い立つような、カザルスのメッセージです。これを胸に、佐藤良雄先生は、帰国後、鈴木鎮一先生とともに、才能教育にチェロ科を創設しました。1954年のことでした。



恩師カザルス先生の思い出

佐藤良雄

フランスの南端、ピレネー山脈の麓にある一寒村、ブラードに私が初めて着いたのは1951年の秋も深い頃であった。30年間！！毎日この日の来るのを待っていた私は、一刻も早く先生にお目にかかりたくて、宿を取っている余裕もなく、大きな荷物をかかえたまま駅から真すぐに先生のお宅に飛び込んだのであった。

折から先生は手紙を書いておられたが、茫然と戸口に立っている私をみると、「オー」といって立ち上り、「よく来た、よく来た」と言いながら、固い握手をしてくださった。私は溢れ落ちる涙を押さえることができなかった。

少年時代にレコードばかり聴いていた私は、先生のレコードにまったく魅せられた挙句、遂に一生をセロ奏きとして過ごすようになった。実際、先生の演奏を聴くと他のもろもろの演奏は色褪せてしまっ興味がない。クライスラーが「弓の王」と呼び、ブルーノ・ワルターが「現存の世界最大、至高の音楽家」と叫んだのも、またむべなるかな。

ブラードにおける2年半の数々の思い出は限りなく、今ここに記すことは紙数がない。それで、ただ、当時の先生の日常生活を少し述べさせていただく。先生はいつも6時頃起床されて愛犬のシェパード、フォレエを連れ、朝食前に散歩をなさる。午前中はご自分の勉強で、セロはもちろんのこと、ピアノと作曲をなさる。当時75歳のご高齢にも係らず、コツコツと毎日勉強されておられた。「他人のためにではない、わたし自身のためなのだ」と。

正午から1時までが面会時間で、世界各国より、高位高官はもとより、身の上相談にくるカクロニャの農夫に到るまで、あらゆる階級の人たちが訪れるが、先生が、いかなる階級の人に対しても全然同じ態度で応接されるのを見た。肩書というものは先生には無関心にみえる。先生に、援助や、相談や奔走を求める不幸な人たちに、たとえ見知らぬものになっても、心から尽くしてやることをもって大きな喜びとされている有様を見ると、ただ、もう頭が下がるばかりであった。「わたしはキリスト教徒として、やっているに過ぎない」と言われた。先生は、ちょうど太陽のように、何も言わなくとも、光りと温かさがありがたさを周囲のものに感じさせるのだ…。



1961年の来日時、カザルス夫妻（右端マルタ夫人）は佐藤良雄先生のご家庭を訪問。素敵な時間をともに過ごした。カザルスの右手が置かれているのが、チェリストになられた佐藤光さん（パリ管弦楽団）、その右がチェロ科指導者の佐藤満先生

さて、1時頃昼食をとられてから1時間か2時間、きまって午睡をなさる。それから夕刻まで手紙を書かれるのである。日に少なくとも2、30通の手紙が地上到る所より来る。現在は、人手に依ってタイプで出されるが、当時は、いかなる手紙にもいちいち手ずから返事を書いておられた。毎日3時間ぐらいをそれに費された。「これは人としての当然な義務だから」と。



カザルスのDNAは、以後、指導者を通じてスズキ・チェロ科に伝わっています（1982年、アンドレ・ナヴァラ来日時。カザルスの胸像の前で）

レッスンは、5時半からで、1時間半から2時間に及ぶ。生徒と向かい合って掛け、全部奏いて教えられる。いかなる曲も、楽譜は誰も持っていない。日に1人しか教えないゆえ、生徒はいつも6人以内で、その半数は女性であった。「東洋人は、おまえが初めてだ」と言われた。毎年7月に催されるブラード音楽祭には、先輩の生徒たちもまた集まってきて、日頃淋しい村も夏は急ににぎやかになる。アメリカのフォリ嬢や、なんと、15年もレッスンを受けたというスイスのフォン・トーベル氏などを今なおアリアリと思い出す。みな、何という善い人たちだったろう！先生から愛と謙譲のレッスンを受けたからであろう。

いよいよブラードを去る日、もはや再び見ることはあるまいと思われ、断腸の思いをしたことであったが、計らずもまた再会の大きな喜びを与えられたことは、まったく神の賜物である。終わりに先生の言葉を一つ。「すべてのこと、あらゆる活動や企画において、もしその根底において善良さがなかったら、何事も達成されない」



チェロ科がこれまで歩んできた道のりと、
これからの可能性に想いを馳せています。

公益社団法人 才能教育研究会理事長
早野龍五

皆様、本日はチェロ科創設 70 周年記念 第 26 回スズキ・メソードチェロ全国大会にご来場
いただき、心より感謝申し上げます。

スズキ・メソードは、鈴木鎮一先生が「どの子も育つ」という理念のもと、ヴァイオリ
ン教育を通じて生まれました。その中で、チェロ教育の重要性にも早くから目を向けられ、
1954 年、佐藤良雄先生がカザルス先生の薫陶を受け帰国されたことを機にチェロ科が設立さ
れました。この 70 年間、チェロ科は音楽を通して数えきれないほどの子どもたちを育み、そ
の可能性を広げてきました。

本日の大会では、チェロアンサンブルやヴァイオリン科の子どもたちとの共演、さらにカ
ザルス財団からの特別なお祝いメッセージが届けられるほか、スペイン・バレンシアやオー
ストラリアの子どもたちによる祝賀演奏も披露されます。これらのプログラムは、音楽を通
じた国際的なつながりと未来への希望を感じさせてくれるものです。チェロ科がこれまで歩
んできた道のりと、これからの可能性に想いを馳せながら、どうぞ最後までお楽しみください。

そして、来年はスズキ・メソード創設 80 周年を迎えます。お台場に新しく完成する
TOYOTA TOKYO ARENA にて、2026 年 3 月には、待望のグランドコンサートを開催すること
が決まっています。ぜひその場でも、音楽を愛する仲間とともに素晴らしいひとときを共有
しましょう。

子どもたちの未来を共に支えてくださる皆様に、心より感謝申し上げます。本日の大会が、
皆様にとって心温まる特別な一日となりますようお祈りいたします。



photo © Ariga Terasawa

パブロ・カザルスの奏でる数々の録音は、
長い間私の愛聴盤であり続けています。

公益社団法人 才能教育研究会会長
東 誠三

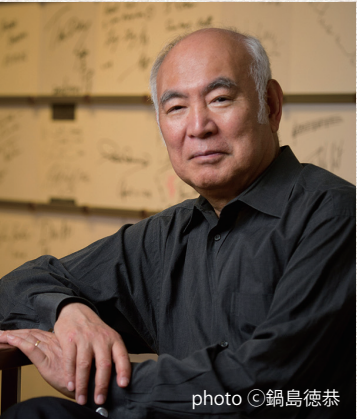
スズキ・メソードチェロ科の生徒の皆さん、ご家族の皆様、そしてご指導に携われておら
れる先生、本日はチェロ科全国大会の開催、誠にありがとうございます。

このような、幅広い年代のチェリストが多く集まるコンサートというのは、日本はもとより、
海外を見渡しても、そう多くはないのではないかと思います。これも関係者の皆様の日頃
からのチェロへの深い愛情と情熱の結晶だと思います。

スズキ・メソードの一員として育った私にとって、ヴァイオリンやピアノと共に、チェロ
という楽器も常に身近な存在であり、その音色はヴァイオリンとはまた違った魅力を持つも
のだということに、早くから気づいておりました。幸い 8 歳の時と 10 歳の時に「テン・チル
ドレン」という催しのメンバーになる機会があり、その時に同年代のヴァイオリニストとチェ
リストと組んで演奏したピアノ・トリオは、私を音楽の道に進ませる一つの大きな動機とな
りました。

ピアノを専門とする音楽の道に進んだ私ですが、他の楽器への興味、特に弦楽器への興味
と愛着はとりわけ深いものがあります。あの、あまりにも有名なチェロの巨匠である、パブロ・
カザルスの奏でる数々の録音は、長い間私の愛聴盤であり続けています。

皆さんの奏でるチェロの音が、このホールの空間いっぱいに広がり、そしてそれが聴いて
いる方の心に届いて行く…。なんと素晴らしいことでしょうか！あらためて、この皆さんに
とって特別な日を、心よりお祝い申し上げます！



チェロ科創設に関しては佐藤良雄先生のご努力、ご功績を忘れられません。

チェリスト 堤 剛

スズキ・メソードチェロ科創設 70 周年、本当におめでとうございます！ヴァイオリンのための才能教育として鈴木鎮一先生が始められた現スズキ・メソードも、今やピアノ、チェロ、フルートをも含み、全世界に普及するものになりました。加えてソニーの井深大さんのように、そのフィロソフィーを他の分野でも生かそうと努力された方もおられます。チェロ科創設に関しては佐藤良雄先生のご努力、ご功績を忘れることはできません。20 世紀チェロ界の神様とも称せられた偉大なチェリスト / 芸術家であったパブロ・カザルス先生の下で多くを学ばれました。音楽の表現、技巧だけでなく、師の高邁な精神を受け継がれ、それがチェロ科の教育理念の柱となっています。

今では我が国は「チェロ王国」である、と言われるくらい数多くの優れた若手チェリストが輩出しています。しかもその中の多くは当メソード出身です。私はその大きな理由の一つが、鈴木先生の楽器演奏へのアプローチが最も自然に近い形で行なわれていることにあると思います。

嬉しいことに我が国では上皇様を始めとして、大変多くの方がチェロを嗜んでいらっしゃいます。高円宮殿下もその一人であられたばかりでなく、殿下はスズキ・メソードに心から賛同され、力強いサポーターとなりました。

ドイツ語に Musizielen（ムジチーレン）という言葉があります。これは「音楽をする」という意味だけでなく、「一緒に音楽をすることによって生まれる響きを楽しむ」という意味があります。これぞ鈴木先生が目指されたものではないでしょうか。世界の人々が音楽を通じて繋がって行き、その繋がりが広く行きわたることによってお互いの理解が深まり、人生が豊かになります。そしてそれによって究極的には世界平和に貢献できるのではないかと、私は信じております。



世代を超えた絆の強さがスズキ・メソード チェロ科の魅力でもあります。

第 26 回チェロ全国大会実行委員長 藍川政隆

本日は『チェロ科創設 70 周年記念 第 26 回スズキ・メソード チェロ全国大会』にご来場いただき、誠にありがとうございます。

創設 60 年を記念した前回の第 25 回から 10 年が経ちました。その間にはコロナ禍などいろいろなことがありましたが、子どもたちは健やかに成長し、またこの創設 70 周年を迎えたことをとても嬉しく思います。カザルス先生に師事された佐藤良雄先生がスズキ・メソードのチェロクラスを始められ、今日までたくさんの子供たちが立派に育っていきました。

本日は OB・OG を交えてのチェロ・アンサンブルもあります。世代を超えた絆の強さがスズキ・メソード チェロ科の魅力でもあります。それぞれが力を出し切り、演奏してくれると思います。どうぞホール一杯に響きわたるスズキトーンを心ゆくまでお楽しみください。

最後に、この演奏会を裏で支えていただいている、ヴァイオリン科の先生方並びに大勢のスタッフの皆さんに、厚く御礼を申し上げます。



今日の記念演奏会をととても楽しみにしております！

チェリスト・チェロ科特別講師 倉田澄子

チェロ科創設 70 周年記念演奏会、心よりお祝い申し上げます！
今や日本のチェロ界は、大御所でいらっしゃる堤剛先生を筆頭に、たくさんの若手演奏家を輩出していますが・・・演奏のみならず多方面で大活躍し、後輩にも情熱的に指導する宮田大さんなど、鈴木鎮一先生が撒かれた愛の種から、チェロ科のルーツを造られました佐藤良雄先生や、林峰男先生のご努力が実を結び、美しい大輪の花を咲かせています・・・！！

ちょうどチェロ科が創設された頃、昔私の父と大親友だった鈴木喜久雄さん（鈴木裕子元会長のお父様）が、私のために分数楽器を作ってくださいました。初めてピカピカ光る美しいチェロを手にした時の喜びは、今も忘れられません！体が大きかった私は、すぐに父の持っていた鈴木政吉さんの大人のチェロに変わり、レッスンを始めました。子どもが持ち運ぶには少し重かったけど、父の弾く古い SP レコードの音色に似ていて、とても好きな音でした・・・

私は現在、チェロ科の先生方に研究会などで大変お世話になっております・・・。愛と情熱を持って、将来ある子どもたちと日頃からご尽力されているチェロ科の先生方に、心から敬意と感謝の気持ちを表し、今日の記念演奏会をととても楽しみにしております！！



皆さんが日本の心の屋台骨を担ってくれると信じています。

チェリスト・チェロ科特別講師 山本裕康

チェロ科創設 70 周年、おめでとうございます。
チェロ科創設を果たし、黎明期に奮闘された指導者の先生方、そして脈々と紡いでこられた多くの先生方には心より敬服いたします。ベテランの先生方に加え、熱く若き先生方の加入も嬉しく頼もしく、そんなバランスのとれた先生方のお手伝いができることを光栄に思います。

このスズキ・メソードのチェロ科からは素晴らしいチェリストのみならず、多方面で活躍し、社会に貢献される素敵なた方を輩出しております。そのチェロ科出身の僕としてもそんな方々の活躍を誇りに思いますし、励みにもなっています。

これから創設 100 年、200 年と続くことを願いつつ、チェロや音楽を学び成熟した素晴らしい人材がこの日本の心の屋台骨を担ってくれると信じています。



スズキの素晴らしさは、人間を育てることにあります。

チェリスト・チェロ科特別講師 菊地知也

チェロ科創設 70 周年記念の全国大会開催、誠におめでとうございます。
佐藤良雄先生にご指導いただいたのは、もう半世紀も前のことになります。月日の流れの速さに改めて驚かされます。当時、一緒に学んだ仲間たちの中から、多くのプロの演奏家が誕生していますが、皆、スズキの教えをしっかりと身につけ、素晴らしい音楽家として活躍されています。

スズキ・メソードの素晴らしい点は、楽器を巧みに演奏することだけでなく、何よりも人間を育てることに重きを置いていることだと確信しております。

今、世界はますます平和が遠ざかり、厳しい状況になってきているように感じます。このような時代だからこそ、音楽の力で人々の心を癒し、平和への願いを奏でることが大切だと考えます。カザルスが国連で「鳥の歌」を演奏したように、音楽で平和を築けるような人材をこれからも育成していただきたいと願っております。スズキ・メソードが、今後も世界中で多くの才能ある若者を育成し、音楽を通じた国際交流を深めていくことを心より願っております。

カザルスと佐藤良雄氏の精神が、皆さまとともにありますようにと願っています。

カザルス財団副理事長 ナルシス・セラ



パウ・カザルス博物館は大変素晴らしいロケーションにあります。ぜひ日本の皆様もスペインのお越しの際は、こちらにも足をのびしてください
<https://www.paucasals.org/en/>



1961年、文京公会堂でのスズキ・メソードの子どもたちの演奏に感嘆の声を挙げられたカザルスと奥様のマルタ夫人。右が佐藤良雄先生

親愛なる才能教育研究会（スズキ・メソード）の皆様、

カタルーニャのパウ・カザルス財団を代表して、スズキ・メソード チェロ科創設 70 周年記念の全国大会（グランドコンサート）開催を、心よりお祝い申し上げます。

ご存知のように、佐藤良雄氏はカザルスがプラードで教えた最初の日本人チェリストであり、音楽や芸術を通じて子どもたちを立派な教養ある人間に育てることを目的として、日本でスズキ・メソードのチェロ科を創設しました。

カザルスが初めて来日した際にスピーチで述べたように、東京で若いスズキのチェロ奏者やヴァイオリン奏者の演奏を聴いたカザルスは、「音楽を教えること、そして音楽を『踊ったり、小さな楽しみを得るための音』ではなく、音楽がやがて世界を救うかもしれないほど、音楽は人生において非常に重要なものである』ことを理解させることが重要である」と語りました。

エル・ベンドリルのサン・サルバドールビーチを臨む場所に建つ、カザルス邸のサマーハウスにあるパウ・カザルス博物館の音楽室にて、この記念の日に、カザルスと佐藤良雄氏の精神が、皆さまとともにありますようにと願っています。

DEAR FRIENDS AND MEMBERS OF THE TERI,

On behalf of the Pau Casals Foundation in Catalonia, it is a pleasure to congratulate you on the celebration of the Suzuki Method Cello 70th anniversary Grand Concert.

As you know, Yoshio Sato was the first Asian cellist pupil of Casals in Prades, and he founded the Suzuki Method Cello in Japan with the aim of nurturing children to become fine cultured individuals through music and the arts.

As Casals said in his speech when he visited Japan for the first time, and heard the young Suzuki cellists and violinists playing in Tokyo, (It is important) … “To train them to music, to make them understand that “music is not only sound to have to dance, or to have small pleasure, but such a high thing in life that perhaps it is music that will save the world.”

From the music room of the Pau Casals Museum in the summer house of Pablo Casals, facing the beach of Sant Salvador in El Vendrell, we join with you in this commemoration hoping that the spirit of Casals and Yoshio Sato will always be with you.

スズキ・メソードを開発し、世界中に広めてくださったことに感謝いたします。

スペイン（バレンシア）VOLUTA 音楽学校 レジーナ・フエンテス先生クラス



バレンシア地方では、2024 年 10 月末に記録的な集中豪雨による大雨災害がありました。その中でも、今回のお声がけに呼応して、素敵な動画メッセージをお寄せいただき、心から感謝しております

コンサート主催者の皆様

スペインのバレンシアにある VOLUTA 音楽学校の生徒と私たち一同を代表して、スズキ・メソードチェロ創設 70 周年を祝うために、日本の皆様とチェロ実行委員会の皆様にお祝いを申し上げます。

このメソードを開発し、世界中に広めてくださったことに感謝いたします。東京での素晴らしい第 26 回チェロ全国大会には、遠く離れたスペイン・バレンシアからこの動画で参加することで、音楽をすべての聴衆の皆様と共有し、スズキ・メソードが私たちにそうであったように、今も多くの教師たちにインスピレーションを与え続けていることに驚きを持って、ともに喜び合いたいと思います。

Dear concert organizers,

The students and all of us from the VOLUTA Escola de Música in Valencia, Spain would like to congratulate you and the entire TERI Cello Committee on the 70th Anniversary of the Suzuki Cello Method.

おめでとうございます！

オーストラリア（シドニー）チェロ科 水島隆郎先生クラス



スズキ・メソードチェロ全国大会の開催、おめでとうございます。

Congratulations !
for the Suzuki Cello Grand Concert !

動画で、素敵なメッセージをお寄せいただきましたカザルス財団様、そして元気一杯のチェロ演奏も届けてくださったスペイン・バレンシアの皆様は、スペイン・バルセロナ在住のピアノ科ティーチャートレーナー、ルース・三浦先生からのお声がけで実現したものです。そして南半球オーストラリア・シドニーの水島先生からも、子どもたちの元気な演奏をお届けいただきました。ありがとうございました。



荒井 結



荒木匠登



泉 優志



伊藤ハルトシ



江口心一



小棚木 優



香月 麗



北垣 彩



グレイ理沙



黒川実咲



黒川真洋



佐古健一



佐藤桂菜



佐山裕樹



島津由美



島根朋史



John Landefeld



中木健二



西谷牧人



長谷川彰子



長谷部一郎



ピーティ田代櫻



久武麻子



福崎茉莉子



細井 唯



水野優也



宮田 大



牟田口遥香



室野良史



森田啓介



森山涼介



諸岡拓見



矢野智久



分島花音



ここに掲載された34名の先輩たちからのエールは、QRコードから、ご覧いただけます。

80年の歴史のなか、
武道館や国技館を満員にしてきたコンサートが、
2026年春、新たなステージで開催決定！



2,000人の子どもたちによるクラシックコンサート

才能教育研究会創立80周年記念

第55回スズキ・メソッド

GRAND CONCERT

2026.3.27金 | **TOYOTA ARENA TOKYO** |
東京都江東区青海1丁目 (2025年秋完成予定)



第55回スズキ・メソッドグランドコンサートの
詳細はこちらから

出演者、プログラム、チケットに関する情報は
後日発表いたします。お楽しみに！



スズキ・メソッド
公式ホームページは
こちらから



スズキ・メソッド
大人のスズキは
こちらから



The 70th Anniversary of "Suzuki Cello Power" and
the 26th Suzuki Method Cello Grand Concert
チェロ科創設 70 周年記念 第 26 回スズキ・メソード チェロ全国大会

- 第Ⅰ部 記念演奏

チェロ・ソナタ ト短調 Op.19 より第3、第4 楽章 (ラフマニノフ)

チェロ：山本裕康 ピアノ：諸田由里子
- 第Ⅱ部 チェロアンサンブル

聖歌集より Nigra Sum (カザルス / パティ・ヒックス)

レリジオーソ (ゴルターマン)

(休憩)
- 第Ⅲ部 ヴァイオリン科と一緒に

協奏曲 a-moll より第 1 楽章 (ヴィヴァルディ)

二人のてき弾兵 (シューマン)

ソナタより第 1、第 2 楽章 (ヴィヴァルディ / ダンディ) 弦楽伴奏版
- カザルス財団のメッセージと各地からの祝賀演奏

カザルス財団からのお祝いメッセージ (動画)

スペイン・バレンシア、オーストラリアの子どもたちのチェロ祝賀演奏 (動画)
- 第Ⅳ部 チェロ斉奏

協奏曲第 1 番より第 1 楽章 (ハイドン)

シシリアーノ (バラディス / ドゥシュキン)

白鳥 (サン＝サーンス)

ソナタ (ブレヴァール)

スケルツォ (ウェブスター)

荒城の月 ト短調 (龍廉太郎 / 名越央宗)

ロングロングアゴー (ベイリー)

メヌエット第 2 番 (パッハ)

リゴードン (パーセル)

アレグロ (鈴木鎮一)

こぎつね～フランス民謡 (外国民謡)

キラキラ星変奏曲 (鈴木鎮一)

ピアノ：桃原知子



山本裕康
Hiroyasu Yamamoto
チェリスト

スズキ・メソード名古屋支部にてチェロを始め、中島顕氏に師事。桐朋学園大学にてチェロを井上頼豊、秋津智承各氏に師事、室内楽を山崎伸子、R. プレンゴラー、ビュイグ＝ロジェ各氏に師事。在学中、1987 年に第 56 回日本音楽コンクール第 1 位入賞。第 1 回日本室内楽コンクール第 1 位、など数々の受賞歴を持つ。卒業後、桐朋学園研究科、室内楽研究科、キジアーナ音楽院などで研鑽を積む。1990 年東京都交響楽団首席奏者に就任。1994 年退職後、広島交響楽団の客演ソロ奏者、神奈川フィルハーモニー管弦楽団首席奏者を歴任。宮崎国際音楽祭、サイトウ・キネン・オーケストラ、三島せせらぎ音楽祭に毎年参加。晴れた海のオーケストラ、チェンバー・ソロイツ佐世保のメンバー。これまでに名古屋芸術大学、洗足学園大学、上野学園で後進の指導にあたり、現在、東京音楽大学教授、東京藝術大学非常勤講師及びスズキ・メソード特別講師、京都市交響楽団特別首席チェロ奏者。みやざきチェロ協会および信州チェロ協会名誉会員。日本チェロ協会理事。



諸田由里子
Yuriko Morota
ピアニスト

透明な音色と研ぎすまされたバランス感覚が魅力の感性のピアニスト。桐朋学園大学在学中に、第 1 回日本室内楽コンクール優勝。淡路島国際室内楽コンクール第 2 位。日本音楽コンクール特別賞受賞。イタリアのキジアーナ音楽院にてディプロマを取得後、ウィーンに留学。帰国後は国内外のコンクール、音楽祭の公式ピアニストを多数務め、アンサンブルピアニストとして卓越したバランス感覚を持ち、共演者からの信頼も厚い。ソロリサイタルではその美しい音色と確かな解釈で毎回質の高い演奏が評判となっている。東京音楽大学非常勤講師。ナミ・レコードより「諸田由里子ピアノリサイタル」「ドビュッシー：版画 諸田由里子ピアノリサイタルII」をリリース。



桃原知子
Tomoko Momohara
ピアニスト

5 歳よりスズキ・メソードでピアノを始める。東京都立芸術高校音楽科を経て武蔵野音楽大学を卒業。ワルシャワ、モスクワ音楽院のサマースクールに参加、ディプロマを受ける。これまでに神田周子、高橋高子、竹尾聡子、小島久里の各氏に師事。スズキ・メソードではピアノ科指導者として生徒の指導にあたる一方、グランドコンサートや夏期学校などでの公式伴奏者を務めたほか、数々の支部やクラスのコンサートなどで積極的に伴奏活動を行ない、研鑽を積んでいる。

北代裕子
Hiroko Kitadai
司会

フリー英語アナウンサー・ナレーター。NHK ニュース音声多重放送・NHK WORLD 報道番組に従事。10 年前のチェロ科創設 60 周年記念第 25 回チェロ全国大会、2018 年のスズキ・メソードグランドコンサートでも司会を担当している。

第Ⅰ部 Part Ⅰ： 〈記念演奏〉 Performance for Memorial

チェロ・ソナタ短調 作品 19 より第 3、第 4 楽章 (ラフマニノフ)

Cello Sonata in G Minor, Op. 19, 3rd & 4th Mvt. (Rachmaninov)
ラフマニノフ (1873-1943) は 1873 年にロシアの貴族の家に生まれますが、ほどなくしてロシアの農奴解放という社会情勢の中で父は領土を失い続けて破産し、一家はサンクトペテルブルクに移ることになりました。ラフマニノフにとっては決して順風満帆な始まりではありませんでしたが、それが彼の音楽家への第一歩となったのです。

モスクワ音楽院で、ピアノをズヴェレフに、作曲をアレンスキーとタニエフに師事し、卒業後はモスクワのマリンスキー女子専門学校でピアノ教師を務めるかたわら作曲と演奏を続け、ピアニストとしての名声を築きます。

1895 年に作曲し、1897 年にグラズノフの指揮で初演された「交響曲 第 1 番」がまったくの不評に終わり、一時期自信を失い、ノイローゼになります。しかし、その後「ピアノ協奏曲 第 2 番ハ短調」を作曲し、この曲で彼の作曲家としての名前はゆるぎないものになりました。

チェロ・ソナタはこのピアノ協奏曲作曲後、すぐの 1901 年に友人のチェリスト・ブランドゥコーフのために書かれ、同年 12 月にモスクワにてブランドゥコーフのチェロ、ラフマニノフのピアノで初演が行なわれました。

4 つの楽章で構成され、第 1、2 楽章は少し不穏で暗い雰囲気全体を覆い、対し後半の第 3 楽章は穏やかで美しいチェロとピアノの旋律が見事な掛け合いを見せ、感動的で春を迎えた喜びと躍動感に溢れる第 4 楽章で締めくくられます。第 4 楽章の最後のコーダで第 1 楽章冒頭の深いため息のような旋律とリズムが、不死鳥のように鮮やかに復活する様は、全楽章を通して聴くと (演奏すると)、まるでラフマニノフの人生そのものを再現しているかのようです。
(文・山本裕康)

第Ⅱ部 Part Ⅱ： 〈チェロアンサンブル〉 Cello Ensemble

聖歌集より Nigra Sum (カザルス / パティ・ヒックス) Nigra Sum from the Hymnal (Casals/Patti Hicks)

スズキ・メソードとも関わりが深いカザルス (1876-1973) が作曲した聖歌集の 1 曲で、旧約聖書の『ソロモンの歌』に典拠したと考えられています。Nigra Sum はラテン語で【私は黒い】という意味で、葡萄畑で働く女性が「日焼けしているが私は美しい」とエルサレムの娘たちに語りかけています。今公演ではチェロ四重

奏に編曲された楽譜を使用し、チェロの音色が織り成す神秘的で美しい響きをお楽しみください。

レリジオーソ (ゴルターマン) Religioso (Goltermann)

神様に対して深い祈りを捧げているかのような、ゴルターマン (1824-1898) 作曲のとても美しい響きが 4 つのチェロパートによって奏でられます。チェロアンサンブルでは定番の 1 曲です。

第Ⅲ部 Part Ⅲ： 〈ヴァイオリン科生徒と一緒に〉 with Violin group

協奏曲 a-moll より第 1 楽章 (ヴィヴァルディ) Concerto in A minor Op.3-6, 1st Mvt. (Vivaldi)

ヴィヴァルディ (1678-1741) の全 12 曲からなる協奏曲集「調和と霊感」の 6 番目の曲で、独奏ヴァイオリンのための協奏曲です。ヴァイオリン科の指導曲集では第 4 巻に登場し、卒業課題曲になるほどヴァイオリンを学ぶ上で大切な曲です。

二人のてき弾兵 (シューマン) The Two Grenadiers (Schumann)

シューマン (1810-1856) の歌曲「リートとロマンス 第 2 集」の第 1 曲をアレンジしたもので、ヴァイオリン科・チェロ科ともに指導曲集第 2 巻に登場します。ナポレオンのもとで戦い、ロシアから解放されフランスへ帰国する道中に語られる二人の兵隊 (てき弾兵) の会話が中心とされています。曲の後半ではフランス国歌の「ラ・マルセイエーズ」のメロディが使われ、冒頭の悲しく陰鬱とした雰囲気を打ち消すように締めくくられます。

ソナタより第 1、第 2 楽章 (ヴィヴァルディ / ヴァンサン・ダンディ) Sonata in E minor Op.14, No.5 1st & 2nd Mvt. (Vivaldi/Vincent d'Indy) String accompaniment ver.

「6 つのチェロソナタ」はヴィヴァルディ晩年の 1740 年頃に出版されたソナタ集で、このホ短調のソナタはその中の第 5 番です。第 1 楽章はホ短調の“主役”「ミ」の音がたくさん大事なところに書かれており、その音の美しさと正確さが求められます。第 2 楽章は快活な 16 分音符のメロディや、伴奏部のような和音が登場し、様々なテクニクが求められます。なお、本日の弦楽合奏版は、フランスの作曲家、ヴァンサン・ダンディ (1851-1931) の編曲によるものです。

ここで、海外からの動画をご覧くださいます。→ P8-9

第Ⅳ部 Part Ⅳ： 〈チェロ斉奏〉 Cello group performance

協奏曲第 1 番ハ長調より第 1 楽章 (ハイドン) Concerto in C Major Hob. VIIb. 1st Mvt. (Haydn)

ハイドン (1732-1809) が、ハンガリーの大貴族エステルハージ家に仕えてから 5 年ほど経ち、楽長に昇格した頃に作曲され、作曲家として脂が乗り、充実した様子が楽曲の中にも見受けられます。明朗で生き生きとした表情が出やすいハ長調で書かれ、伸びやかで爽やかな印象を与える第 1 楽章はチェロの魅力を伝えるには十分すぎるほどの内容で、多くの人がこの曲を愛するの納得がいきます。

シシリアーノ (パラディス / ドゥシュキン) Sicilienne (Paradis/Dushkin)

オーストリアの女性作曲家、マリア・テレジア・フォン・パラディスの作品と思われていましたが、近年ではポーランド出身のヴァイオリニスト、サミュエル・ドゥシュキン (1891-1976) の偽作だと考えられています。「シシリアーノ」はシシリア島に由来する 8 分の 6 拍子の舞曲で、バッハやモーツァルト、フォーレ、レスピーギなど多くの作曲家がこの形式を生かした曲を残しています。その中でもこの「シシリアーノ」は最も有名な曲の一つです。

白鳥 (サン＝サーンス) The Swan from *Carnival of the Animals* (Saint-Saëns)

チェロといえば、サン＝サーンス (1835-1921) のこの曲を思い浮かべる人も多いのではないのでしょうか。静かな湖面でゆったりと、または優雅に泳ぐ白鳥が連想しながらお聴きください。

ソナタ (ブレヴァール) Sonata in C Major Op.40, No.1 (Bréval)

ブレヴァール (1753-1823) はフランス・パリ生まれの作曲家・チェリストで、パリ音楽院でチェロ科教授も務めました。この 1 番のソナタはハ長調で楽器が響きやすく、弾いていても聴いていても明るく、楽しい曲になっています。

スケルツォ (ウェブスター) Scherzo (Webster)

ウェブスター (1883-1945) のこの曲は、極めて速いテンポで軽快に始まり、中間部では優雅で朗々と歌うメロディが特徴で、子どもたちが生き生きと演奏することでしょう！ 最後は高音のフラジオレットで勢い良く終わります。初めて 4 ポジションや ㏸ (フォルツァンド) が登場します。

荒城の月 ト短調 (瀧廉太郎 / 名越央宗) Moon Over the Ruined Castle in G Minor (Taki/Nagoshi)

瀧廉太郎 (1879-1903) が作曲した、日本で初めての西洋音楽

由来の歌曲とされています。チェロの指導曲集では、ポジションの練習のための曲として登場します。チェロで演奏すると、主のいなくなった“荒城”の雰囲気ピッタリです。

ロングロングアゴー (ベイリー) Long, Long Ago (Bayly)

原曲は、ベイリー (1894-1947) 作曲のピアノ独奏曲で、別れた恋人との再会の喜びを表しています。チェロ指導曲集では第 1 巻 (ト長調) と第 2 巻 (ハ長調) に登場し、今公演ではハ長調で演奏します。

メヌエット第 2 番 (バッハ) Minuet No.2 (J.S. Bach)

バッハ (1685-1750) の二人目の妻、アンナ・マグダレーナのために作られた「アンナ・マグダレーナ・バッハの音楽帳」の曲集にあるメヌエットです。スズキチェロ科最初の卒業課題曲で、右手、左手ともに移弦の正確さが求められます。

リゴードン (パーセル) Rigadoon (Purcell)

バロック期イギリスの大作曲家であるパーセル (1659-1695) は、36 年という短い生涯の中で 800 以上の楽曲を遺しています。リゴードン (リゴドン) は、南フランスのプロヴァンス地方が起源の軽やかで、躍動的な舞曲のことです。チェロ指導曲集では、初めて 2 の運指が登場します。

アレグロ (鈴木鎮一) Allegro (Shinichi Suzuki)

チャイコフスキー作曲「弦楽セレナーデ」第 4 楽章のテーマにそっくりな鈴木鎮一先生 (1898-1998) のメロディは子どもたちに大人気です。弓を勢いよく使い、身体全部を使ってチェロの音をホールに響かせます。

こぎつね〜フランス民謡 (外国民謡) Song of the Wind (Folk Song) & French Folk Song

チェロ指導曲集第 1 巻の序盤で学ぶ、チェロの基礎的な要素が盛り込まれた 2 曲です。前者は弓を止めながら美しい発音をし、素早く正確な移弦と弓を戻す技術が求められ、後者では左手の音階的な運指 (上行形) と音を繋げて演奏する弓の使い方を初めて学ぶ楽曲です。

キラキラ星変奏曲 (鈴木鎮一) Twinkle, Twinkle, Little Star Variations (Shinichi Suzuki)

指をおさえない開放弦から始まるキラキラ星は、「これからヴァイオリン・チェロの世界が始まる」ということと、「どんなに上級生になっても開放弦の美しさを探求する」という両方のメッセージを鈴木鎮一先生から感じます。最も初歩の生徒から上級生まで、同じ目標で演奏することができる唯一の曲です。
(文：原 力海・山田慶一)

70年の歴史でみる

1950

1950年4月
チェロを弾く子どもの写真が、会報「TALENT」の表紙を飾った。この頃から鈴木鎮一先生は、チェロ教室開設の夢を抱いていた。

1950年10月25日
社団法人才能教育研究会が、当時の文部省により認可された。

1951年
佐藤良雄先生が、南フランスのブラードのカザルスを念願になって訪問。以後、2年半にわたり教えていただく。

1954年
佐藤良雄先生、帰国。チェロ科創設に邁進。夏期学校3日目（7月30日）、佐藤良雄チェロ独奏会が開かれた。生徒第1号が齋田出、その後、林峰男、松波恵子姉妹らが続いた。

1955

1955年3月27日
第1回全国大会に佐藤良雄先生が4人の門下生とともに出演。「才能教育」第76号に「待望のチェロ教室開設」の広告を掲載。

1956年
野村武二先生、関西地区京都支部にチェロ科を設立。

1960

1959年3月
チェロ科初の卒業生が誕生。

1961年4月16日
カザルス来日。文京公会堂にてヴァイオリン科とチェロ科あわせて400人の子どもの演奏を聴き、歴史に残る重要なメッセージを語った。「音楽はやがて世界を救うであろう」と。

1965

1964年
長瀬冬嵐先生が、甲信地区長野支部にチェロ科開設。

1967年
佐藤良雄先生が「カザルスとの対話」発刊。

1968年
全国指導者研究会（静岡県・天城）で、鈴木先生がチェロのデモンストレーション。

1970

1970年
中島 顕先生、東海地区名古屋支部にチェロ科開設。3歳～50歳までの多岐にわたる生徒が集まった。

1971年10月30日
長野市民会館で演奏会終了後に、巨匠ムスティスラフ・ロストロポーヴィチが子どもたちと「メヌエット」を演奏。

1973年10月22日
カザルスが、移住先のプエルトリコで心臓発作のために死去。

1974年
ソ連の名チェリスト、ダニール・シャフランの来日コンサート終了後、ステージで子どもたちの演奏を聴いていただく。シャフランの強い希望により、2年後に再会が実現した。

1975

1975年5月4日
関東・関西・甲信・東海の各地区でチェロ科が充実。第1回チェロ全国大会を愛知県文化講堂で開催。

1976年5月1日
杉山 實先生が助教に認定され、関西地区に教室を開設。

1977年5月9日
第2回チェロ全国大会を中野サンプラザ大ホールで開催。

1977年6月12日
第3回チェロ全国大会を長野市民会館大ホールで開催。

1977年12月17日
佐藤良雄先生がご自宅で亡くなられた。71歳だった。

1978年3月1日
佐藤 満先生が助教に認定され、関東地区に教室を開設。

1978年5月14日
第4回チェロ全国大会を神戸文化ホールで開催。

1978年7月3日
鈴木鎮一先生によって、カザルスの胸像を才能教育会館前に建立。

1978年12月1日
久保田顕先生が、指導者に認定され、東海地区に教室を開いた。

1979年5月5日
第5回チェロ全国大会を愛知県勤労会館大ホールで開催。

佐藤良雄先生、カザルスのもとへ。



留学された佐藤良雄先生

1946年に才能教育研究会の前身となる「全国幼児教育同志会」を結成した鈴木鎮一先生は、全国に才能教育運動が広がる中、ヴァイオリンだけでなく、他の楽器でも運動が展開されることを強く願っていました。

チェロについては、鈴木先生が戦前に東京の帝国音楽学校で指導をされていた頃の友人で、チェロ奏者として活躍されていた

佐藤良雄先生に、鈴木先生は「チェロ科を設立したい」という夢を語っています。佐藤良雄先生は永年にわたり、カザルスから教えるを請いたいという熱い気持ちを持っていたこと、そして近々、それが実現できそうであることを語り、「今しばらく、お時間をください」と伝えています。鈴木先生も尊敬するカザルスに、佐藤良雄先生が

カザルスの来日。あの有名な言葉は、



子どもたちに囲まれたカザルス(1961年4月16日、文京公会堂)。左端で鈴木鎮一先生が見守ります

初期の最大のトピックスは、何と言っても1961年のカザルスの来日です。4月16日、文京公会堂（本日の会場、文京シビックホールの前身となる施設です）にマルタ夫人とともに現れたカザルスは、400名の生徒たちの中に入って、涙ぐみながら、そして感動に震える声で、素晴らしい

相次ぐ芸術家たちの来日、そして、

1971年10月30日、長野市で心温まるエピソードがありました。それが、世界の巨匠、ロストロポーヴィチと豆チェリストたちの感動的な交流でした。「大変懐かしいですね。あの時は、母を亡くした直後で、しかもソルジェニツィンをかくまったことでソ連当局から国外での演奏禁止を言われていた頃でした。やっとの思いで妻のヴィシネフスカヤと来日して、演奏会を開いたのです。その本番直後に子どもたちが弾くバッハの『メヌエット』や『キラキラ星変奏曲』『ちようちょう』が大変素晴らしくて、私もチェロを出してきて一緒に『メヌエット』を弾きました。スズキ・メソードのように段階的に教えていくのは非常にいいし、重要なことです。5歳、6歳で音楽をするといっても、その頃から難しい曲をやらせると、精神的な面、

満を持して、第1回チェロ全国大会

海外から訪れる高名なチェリストが続く中、全国各地での教室展開も着実に行なわれ、チェロ科でも全国大会を開催しようという意欲が生まれてきました。長野の長瀬冬嵐先生クラス、京都の野村武二先生クラス、そして名古屋の中島 顕先生クラスではお互いの交流がありました。次第に「チェロ科の全国大会をやろう」との気運が高まり、鈴木先生に相談すると「私は、その言葉をお待ちしていました」と即決。そこで、1975年5月4日に開催されたのが、第1回チェロ全国大会です。鈴木先生の生まれ故郷である名古屋の愛知県文化

スズキ・チェロ・パワー

そしてチェロ科の創設！

直接チェロを教えていただけることに大賛成でした。

1951年秋、永年の思慕と憧憬を胸にたたえて、カザルスのもとに東洋人最初の弟子として留学された佐藤良雄先生は、師から受けた薫陶の数々を鈴木先生に、そして友人であり、後に才能教育研究会常任理事となる青木謙幸氏に、幾通もの手紙で知らせました。

カザルスの言葉、教えの数々、そして日常の細かい描写に至るまで、克明なメモの数々…。たとえば、カザルスは次のような自分を律する言葉を残しましたが、その一つひとつに佐藤良雄先生の深い共鳴が伝わってくるようです。

- すべてを偶然に任せてなげやりにはいけない。何物もボンヤリ混然たるままで置いてはいけない。他人を心服させるためにはまず、本人自身が確信を持つことから始めなくてはならない。
- 私は毎日再生したつもりでいる。そして、毎日毎日が私にとって再出発でなくてはならない。こうした生き方の故に、私はいつも若々しさを残している。

こうして、1954年、チェロ科が創設されました。

この時のもの

メッセージをお話しされました。

「音楽は、やがて世界を救うであろう」

その時の様子を、鈴木鎮一先生は、「30年来、その音楽と奏法と偉大な人間の精神とを究めつつ、今日までやってきた私にとっては、限りなき大きな喜びであった」と「才能教育通信」に記し、通訳の任に当たられた理事の本多正明先生も、カザルスの一挙手一投足をつぶさに観察し、そのすべてを伝えました。スズキ・メソードを学ぶ子どもたちの姿が媒介となって、真の芸術家との魂と魂のふれあいがあったことが、見て取れます。

感動的な交流

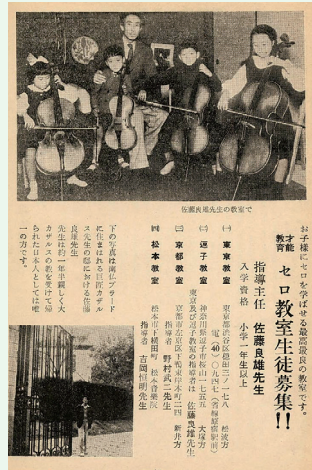
知的な面での発育が逆に遅れることがあります。やさしい曲からステップアップしていくスズキは、だからとてもいいと思います」（2005年、季刊誌のインタビュー）

74年には、ソ連の名チェリスト、ダニール・シャフランとの交歓会が、名古屋支部の中島 顕先生のもとで行なわれました。これは、日ソ協会の方々のご厚意で実現したもので、子どもたちには大きな喜びと思い出を残しました。2年後、シャフランが再来日した折には「あの時の子どもたちに逢いたい」という新聞記事がきっかけとなり、再会の機会を得ることができました。「氏の心の中に、スズキの子どもたちの印象が強く残っていたことが嬉しかった」と中島先生は語っています。

を開催

講堂で行なわれました。

その時のプログラムには、チェロ科創設から20年余り経過したことへの佐藤良雄先生の深い感慨とともに、全国でチェロを学ぶ生徒が300名になった喜び、さらにはヴァイオリン科の7,000名に比べ、まだまだ運動を拡大したいとの強い願いを込められた文章が記されています。しかし、残念ながら、その佐藤良雄先生は2年後、71歳で亡くなられました。



1956年10月発行の会報誌で告知されたチェロ教室のお知らせ



1967年には、永年カザルスの秘書を務めたコレドールがカザルスの言葉を忠実に集めた著作を、佐藤良雄先生が翻訳。チェロ奏者の「聖典」として、2009年に復刻新装版（白水社 税抜3,200円）が登場しました



カザルスから、直接労をねぎらわれた鈴木先生の喜びは、さぞかしだったことでしょう



カザルスご夫妻、佐藤良雄先生とスズキの子どもたちの記念撮影です。左端は青年時代の林峰男先生



シャフランとの再会(1976年)。世界のチェリストたちは、スズキの子どもたちと触れ合うことを心から楽しめました



ロストロポーヴィチと豆チェリストたちの感動的な交流



愛知県文化講堂で行なわれた第1回チェロ全国大会



第1回チェロ全国大会でご挨拶をされる佐藤良雄先生

1980

1980年4月2日～3日
フランスチェロ楽派の偉大な伝統の継承者、アンドレ・ナヴァラが来日。才能教育会館（松本）で公開レッスンを行なった。

1980年5月1日
寺田義彦先生が助教に認定され、関東地区に教室を開設。

1980年9月28日
第6回チェロ全国大会を中野サンプラザ大ホールで開催。

1981年3月1日
佐藤明先生が指導者に認定され、関東地区に教室を開設。

1981年9月27日
第7回チェロ全国大会を中野サンプラザ大ホールで開催。

1981年10月15日
関西地区で数多くの生徒を育てられた野村武二先生が、49歳の若さで急逝された。

1982年5月1日
宮田豊先生が助教に認定され、関東地区に教室を開設。

1982年10月2日～3日
アンドレ・ナヴァラが、1980年に続いて2回目となる公開レッスンを才能教育会館で行なった。

1982年11月23日
第8回チェロ全国大会を神戸国際会議場メインホールで開催。

1982年12月15日
多くの生徒を育て、また指導者仲間にも慕われた関東地区チェロ科指導者、斎藤花子先生が亡くなられた。58歳だった。

1983年1月1日
臼井洋治先生が助教に認定され、関東地区に教室を開設。

1983年5月1日
第9回チェロ全国大会を愛知厚生年金会館ホールで開催。

1983年5月1日
藍川政隆先生が助教に認定され、関東地区に教室を開設。

1984年3月27日
第30回全国大会会場（日本武道館）に、来日中のアンドレ・ナヴァラが来場。

1984年9月30日
第10回チェロ全国大会を新宿文化センター大ホールで開催。

1985年3月1日
井上弘之先生が指導者に認定され、北海道・東北地区に教室を開設。

1985年8月
スズキ・メソッド第7回世界大会（カナダ・エドモントン）に出演されていた堤剛先生のお姿に、中島顕先生は高い芸術性を感じた。後に（1992年）、指導曲集の録音につながった。

1985年11月3日
第11回チェロ全国大会を松本市音楽文化ホールで開催。

1987年5月4日
第12回チェロ全国大会を京都会館第1ホールで開催。

1987年
第56回日本音楽コンクールチェロ部門で、中島顕先生クラス出身の山本裕康さんが1位に。

1988年4月1日
北沢加奈子先生が指導者に認定され、甲信地区に教室を開設。

1988年6月1日
森田健二先生が指導者に認定され、関西地区に教室を開設。

1988年6月12日
第13回チェロ全国大会を愛知厚生年金会館ホールで開催。

1989年5月3日
第14回チェロ全国大会を宇都宮市文化会館大ホールで開催。

1990年4月22日
第15回チェロ全国大会を長野県県民文化会館中ホールで開催。

1991年5月4日
第16回チェロ全国大会を吹田市文化会館メイシアター大ホールで開催。

1990

カザルスの銅像を製作

1978年には、全国の会員からの協力で、鈴木先生は、才能教育会館前のライラック公園内（現在の、まつもと市民芸術館屋上）にカザルスの胸像を建立しました。1973年に亡くなられたカザルスの死を悼んだ鈴木先生は、「高い感覚、美しい心の立派な人に育てる音楽教育こそ、幼児の最高の教育であることを私は、はっきりと知りました」と第5回チェロ全国大会のプログラムで記されています。その強い思いが、この胸像には込められています。夏期学校で松本に行かれた際には、ぜひ、まつもと市民芸術館屋上でご覧ください。

黎明期の大先輩たちを失った悲しみ

1980年代は、81年に、チェロ科黎明期から才能教育運動に共鳴された関西地区チェロ科指導者の野村武二先生が、そして82年に、周囲の指導者の「おふくろさん」的存在として慕われた関東地区チェロ科指導者の斎藤花子先生が、相次いでご逝去され、悲しみのスタートとなりました。

季刊誌59号には、野村先生の親友だった新井覚先生、そして大先輩として慕われた中島顕先生らの追悼文が掲載されました。中島先生による追悼文です。「まだ、指導1年生の頃、先生のコンサートにお誘いを受けたことがあります。鈴木先生も講演なさるといので大阪まで出かけて行き、50名前後の子どもたちの素晴らしい演奏を聴かせていただきました。初めて『白鳥』やポッパーの『ガヴォット』の合奏を聴きました。ヴァイオリンでは常識になっていることが、自分の中ではチェロでは常識ではなかったのです。ステージの10数名の子どもたちがポッパーの『ガヴォット』を合わせるだけの演奏ではなく、自在にチェロを操り、見事に弾いてのけたのです。その細やかな弓使い、微妙な節回し、今でもはっきりと目に浮かびます。自分の教室はまだ『キラキラ星』の生徒ばかり。いつになったらこんな合奏ができるようになるのかと……（中略）。野村先生は、生きること本当に不器用な先生でした。チェロしかないような先生で

ヴァイオリンの奏法研究にも発展した

フランスのチェリスト、アンドレ・ナヴァラとの交流もトピックです。1980年、そして82年の2度にわたる才能教育会館での公開レッスンで、的確な指導であるばかりでなく、誠実さとユーモアに溢れたレッスンは、受講生や聴講者に強い影響を与えました。

82年の公開レッスンでは、チェロ科の生徒を始め、卒業生、そして指導者など9名が受講。一貫して、その姿勢も音色もやわらかく、自然で美しい姿に誰もが魅了されました。

堤剛先生による指導曲集の録音

1992年には、現在、世界中で使われているチェロ指導曲集の録音が、テネシーとフロリダのスタジオで行なわれました。チェロが堤剛先生、ピアノが東誠三先生でした。この録音を堤先生にお願いされたのには、7年前の出会いがありました。エドモントン（カナダ）で開催されたスズキ・メソッド第7回世界大会で、マスタークラスとコンサートに出演されていた堤剛先生のお姿に、参加していた中島顕先生が高い芸術性を感じられたのです。

このエドモントンでの出会いをきっかけに、中島先生は「堤先生の演奏で教材の録音をしたい」と国際的なチェロ科の会議で進言されたところ、世界の指導者たちの圧倒的な賛成を得ました。堤先生は、



現在は、まつもと市民芸術館の屋上にあるカザルスの胸像

を乗り越える

した。そんな音楽に対する純粹さが、自分の身体を酷使された原因なのかもしれません。音楽をしている以外には、欲も野心もない先生でした。若くして佐藤先生を通してカザルスに傾倒され、才能教育にカザルスの孫弟子をたくさん育ててくださいました。（中略）先生はいつも口癖のように、教室を開設された当時のことを聞かせてくださいました。今でもまだそれほど一般的ではないチェロ、当時は小さい分数チェロですら手に入らない時代、3名の生徒からスタートされたと聞きました。多分想像できないくらいの苦労があったに違いありません。私たちより先輩の先生方は、みんなそこに出発点を持っていらして、その上に今のチェロ科があることをけっして忘れてはならないと思うのです」

斎藤花子先生への追悼文は、季刊誌63号に掲載されました。佐藤満先生の追悼文です。「斎藤先生は我々チェロ科のおふくろさんでした。ほとんどの者は30前後の、何も気のつかぬ無骨な男どもばかり…。（中略）先生は潤滑油のように私たちの間で、やさしく、やわらかくまとめてくださったのです。よくご馳走を作ってくださいました。夏期学校や研究会などで皆で泊まると、たいてい先生は近くのスーパーに行かれて、ささっと実に要領よく買い物をされ、あっという間に職人顔負けの手料理を振る舞ってくださいました」

ナヴァラとの交流

鈴木先生は、あまりにもナヴァラの右手の動きがスムーズであることに気がつかれ、「きっと右手の甲にコインを載せて演奏しても落ちないのではないか」とアイデアが閃かれたそうです。そして、自らヴァイオリンの奏法練習として、右手の甲にコインを載せて演奏するための練習を重ねました。この練習法は、全国指導者研究会で、ヴァイオリンの指導者にも伝えられたのです。

この時の録音をよく覚えていらっしゃいました。

「世界中の教室で使われるので、各国の偉い先生たちが、調整室にずらりと勢揃いでした。ヨーロッパでは、そう教えていない、ここはスラーにした方がいいなど、すぐに議論が始まります。指導曲集の後半はチェロのスタンダードな曲が並び、議論になりませんが、初歩の曲、特にキラキラ星変奏曲が一番大変でした。あれほど有名な曲が、あれほど難しいとは思わなかったのです」と2014年春、季刊誌「先輩、こんにちは」の取材で、堤先生は懐かしそうに話してくださいました。



愛知県勤労会館大ホールで開催された第5回チェロ全国大会（1979年5月）。鈴木先生の表情が素敵です



中野サンプラザ大ホールで開催された第7回チェロ全国大会（1981年9月）



亡くなられる4ヵ月ほど前の野村先生と睦枝夫人、長男の野村朋亨さん（1981年レクピワでの全国指導者研究会にて）



左から、久保田顕先生、斎藤花子先生、ヴァーツラフ・アダミール先生、中島顕先生、長瀬冬嵐先生、久保田純子先生、佐藤満先生、杉山寛先生（1978年全国指導者研究会・愛知県三ヶ根にて）



誠実さとユーモアに溢れたナヴァラの公開レッスン（1982年）



第30回全国大会（1984）にも来場されたナヴァラ。当日生徒が演奏した「故郷」「浜辺の歌」は、ナヴァラのリコーンにあわせて練習した成果でした



指導曲集 CD



松本市音楽文化ホールで開催された第11回チェロ全国大会（1985年11月）

- 1991年

第60回日本音楽コンクールチェロ部門で、本会チェロ科出身の菊地知也さんが1位と増沢賞を受賞。
- 1992年

堤剛先生による指導曲集の録音が、テネシーとフロリダのスタジオで2回にわたり、行なわれた。
- 1992年4月1日

川手由紀先生が、指導者に認定され、甲信地区に教室を開いた。
- 1992年9月15日

第17回チェロ全国大会を愛知県厚生年金会館ホールで開催。
- 1993年9月12日

第18回チェロ全国大会を福島県文化センター大ホールで開催。
- 1994年11月13日

第19回チェロ全国大会を長野県松本文化会館大ホールで開催。
- 1995年

第64回日本音楽コンクールチェロ部門で、中島顕先生クラス出身の長谷部一郎さんが1位に。
- 1996年

チェロ科講師として林峰男先生を迎えた。全国指導者研究会や夏期学校、および国際スズキ・メソッド音楽院や各地のマスタークラスで精力的な指導を行なっていた。
- 1996年9月15日

第20回チェロ全国大会を名古屋市民会館大ホールで開催。
- 1997年5月1日

為貝豊先生が、助教に認定され、関東地区に教室を開設。
- 1997年9月14日

第21回チェロ全国大会をティアラこうとう大ホールで開催。
- 1998年11月29日

神戸で開催された「第1回1000人のチェロ・コンサート」にチェロ科の生徒50名、指導者20名が参加。アンコールにも、スズキの子どもたち100名（高円宮様ご一家4名様を含む）が参加し、合計170名に、1,013人の記録達成に大きく貢献した。
- 1999年6月1日

森由季野先生が指導者に認定され、九州地区に教室を開設。後に東海地区に教室を開設。
- 2000年6月1日

河地正美先生が助教に認定され、関東地区に教室を開設。
- 2001年8月25日

野村武二先生没後20年のメモリアルコンサートが、大阪のザ・フェニックスホールで開かれた。
- 2002年4月1日

瀬畑むつみ先生が助教に認定され、九州地区に教室を開設。
原香恋先生が助教に認定され、甲信地区に教室を開設。
- 2003年1月13日

第22回チェロ全国大会をメルパルクホール FUKUOKA で開催。
- 2003年3月1日

廣岡直城先生が指導者に認定され、東海地区に教室を開設。
- 2003年10月

第72回日本音楽コンクールチェロ部門で、臼井洋治先生クラス出身の遠藤真理さんが1位に。
- 2004年4月1日

池田沙和子先生が指導者に認定され、北陸越地区に教室を開設。
- 2005年5月

楽譜制作委員会を立ち上げ、林峰男先生監修の副教材として、まず、バッハの無伴奏チェロ組曲第3番の楽譜を制作した。
- 2005年5月20日～22日

「インターナショナル・チェロ・コンgres in 神戸 2005」を国際チェロアンサンブル協会と共催。あわせて、「10チルドレンコンサート」、チェロ科創設50周年記念第23回チェロ全国大会をポートピアホール（神戸市）で開催。「第3回1000人のチェロ・コンサート」にも多数の生徒が参加した。
- 2005年

第74回日本音楽コンクールチェロ部門で、宮田豊先生クラス出身の宮田大さんが1位と増沢賞を受賞。

林 峰男先生を講師として招聘



1996 年になって、才能教育研究会は指導者養成機関としての国際スズキ・メソッド音楽院の充実を果たすため、チェロ科講師、後に教授としてスズキ・メソッドチェロ科出身で日本を代表するチェリストの林峰男先生をお迎えしまし

「第1回1000 人のチェロ・コンサート」

1998 年 11 月 29 日、「第 1 回 1000 人のチェロ・コンサート」が神戸で開催されました。95 年に起きた阪神・淡路大震災の復興支援と世界平和を祈念して、国内外からプロ・アマチュアのチェリストたちが神戸に集結したのです。このコンサートの名誉総裁を務められたのが、スズキ・メソッドでチェロを習われていた高円宮憲仁親王殿下でした。2014 年 10 月にご結婚をされた典子様を始め、スズキ・メソッドでチェロを習われていた承子様、絢子様と一緒に参加されました。

70 名以上の海外からの参加者も含めた、多くの出演者の関心は、小さな分数楽器を持った本会の生徒たちでした。練習の合間に、会場

才能教育課程以降を対象に副教材

林峰男先生とチェロ科指導者による定期的な研究活動を通じて、よくテーマに取り上げられたのが、各指導曲の奏法の研究でした。楽譜については、8 巻までが全音楽譜出版社よりすでに出版され、必要に応じて改訂されてきました。才能教育課程以降に学ぶボッケリーニのチェロ協奏曲変ロ長調やハイドンのチェロ協奏曲第 1 番ハ長調、バッハの無伴奏チェロ組曲第 3 番、サン＝サーンスのチェロ協奏曲第 1 番、ブラームスのチェロ・ソナタ 小短調については、市販の楽譜をそのつど手書きで直しながら、レッスンが進められていました。

2000 年代に入って、林峰男先生の意思を込めた楽譜を副教材としてきちんとまとめる必要性が高まり、楽譜制作委員会を立ち上げ、その第一弾として 05 年にバッハの無伴奏チェロ組曲第 3 番を作りました。指導者が手分けして音符を打ち込み、楽譜ソフトで仕上げ、最終的に井上弘之先生が楽譜の定番サイズである菊倍判（304 × 218mm）として製本。こうして、現在も全国の教室で上級生が使う楽

創設 50 周年を記念し、チェロ・コン

2005 年 5 月に神戸で行なわれた「インターナショナル チェロ・コンgres in 神戸 2005」の「チェロ 10 チルドレンコンサート」、2 歳から大人まで約 300 名が参加した「第 23 回チェロ全国大会」、「第 3 回 1000 人のチェロ・コンサート」がスズキの大きな可能性を世界に印象づけました。チェロ科創設 50 周年記念の参加でした。

ロストロポーヴィチ、シュタルケル、グリーンハウス、ゲリングスなど世界に名だたるチェリストたちが集合したこのコンgresで、彼らが様に驚いたのが、チェロ科の子どもたちが高い能力を発揮した演奏でした。多くの賛辞が寄せられました。

「ベルリン・フィル 12 人のチェリスト」の一人ルドルフ・ヴァインスハイマーさんからのメッセージです。

た。林先生は、これから指導者になる人材を育てるばかりでなく、現役のチェロ科指導者の育成にも力を注がれることを念頭に、スズキ・メソッドチェロ科の責任者として、力を発揮されました。今に至るスズキのチェロ隆盛の原動力となってくださったのです。

への参加

内の各所で、生徒たちは、モデル撮影会のようなたくさんのフラッシュを浴び、スズキチルドレンの存在をアピールしました。



「第 1 回 1000 人のチェロ・コンサート」には、スズキ・メソッドでチェロを学ぶ生徒や指導者たち計 170 名が参加。左手前に高円宮様、そして右手前にスズキの生徒たちが並びました

を制作

譜として誕生しました。

必要に応じて、改訂作業を進め、同時に、音源として、CD の必要性も高まり、09 年の改訂版からは CD も添付（林峰男先生のチェロ、大住綾野先生のピアノ）。10 年 7 月に至るまで、順次録音されていきました。市販の協奏曲の CD がオーケストラ伴奏であるのに対し、この CD をピアノ伴奏としたことで、ピアノとの共演で卒業録音に臨む生徒たちの利便性にも応えたことになります。

一方で、通称「緑の本」と呼ばれる副教材も同時に制作。全国大会（グランドコンサート）や各種の発表会などで弦楽合奏をする際に、セカンドパートをチェロが担当し、アンサンブルと一緒に楽しむことができます。元になったのは、鈴木先生が作られたヴァイオリン科用のセカンドパートでした。初級の時代から、アンサンブルの喜びを感じられるスズキ・メソッドならではの副教材です。

グレスに参加

「すべてのコンサートに赴き、4 歳から 15 歳までの生徒たちの、信じがたいほどの能力に深く感銘いたしました。このような小さな生徒に動機を与え、夢中にさせる先生方の愛情や情熱は、いかばかりであったかと、しみじみ感じ入っております。300 名のチェロ科の生徒によるコンサートは、魂を心底から大きく揺さぶるものであり、決して忘れることができません。私たち 1,069 名のチェロ奏者は、ヴィヴァルディを奏でる子どもたちに接することができ、どんなに嬉しかったことでしょう。この独特な音楽教育は、子どもたちの人格形成にも役立ち、生涯にわたって影響を与え続けることでしょう。世界中のより多くの子どもがスズキの教育に習熟し、素晴らしいアイデアを引き継いで行くことを、心から願ってやみません」



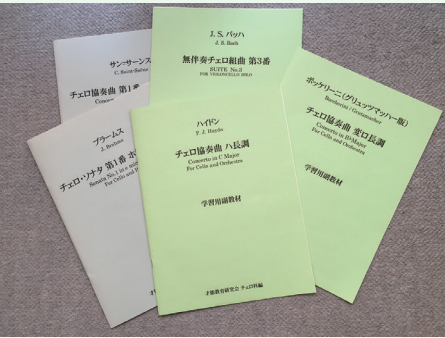
第 24 回チェロ全国大会（2012 年、札幌）での林峰男先生の演奏



第一線のチェリストである林峰男先生の肝煎りで始まったスズキの生徒たちとのアンサンブル。各地で好評でした



愛知県厚生年金会館大ホールで開かれた第 17 回チェロ全国大会（1992 年 9 月）



副教材を手作りで制作



副教材 CD



巨匠の一人、バーナード・グリーンハウスさんのメッセージ「私は、このスズキの子どもたちに未来を見ました。今回、日本に来て一番の思い出です。アメリカに帰ったら、この宝物をみんなに分け与えたいと思います」

2010

2015

- 2006年5月22日

北大阪支部の弦楽合奏団「北大阪ユング・ソリスト」を永年導くなど、才能教育研究会の発展に尽くされた、関西地区チェロ科指導者の杉山 寛先生が亡くなられた。60 歳だった。
- 2006年10月

副教材サン＝サーンスのチェロ協奏曲第1 番の楽譜を制作。
- 2006年12月

副教材として、セカンドパート用の「緑の本」を制作。
- 2006年12月1日

第1回ガスパール・カサド国際チェロ・コンクール（東京・八王子）の関連事業として、100名のチェロ科の子どもたちによる「ピッコリーナ・ピッコリーノ」コンサートを開催。
- 2007年4月1日

伊藤岳雄先生が指導者に認定され、関西地区に教室を開設。
- 2007年5月～2008年5月

副教材ブラームスのチェロ・ソナタ ホ短調の楽譜を制作。ボッケリーニのチェロ協奏曲 変コ長調の楽譜を制作。ハイドンのチェロ協奏曲第1 番ハ長調の楽譜を順次、制作。
- 2009年2月

副教材の添付 CD として、サン＝サーンスのチェロ協奏曲第1 番を林峰男先生のチェロ、大住綾野先生のピアノで録音。
- 2009年4月1日

宮下杜介先生が指導者に認定され、九州地区に教室を開設。
- 2009年11月7日

チェロ科出身の宮田大さんが、第9回ロストロポーヴィチ国際チェロコンクールで、日本人として初めて優勝。
- 2011年4月1日

山田慶一先生が指導者に認定され、北海道・東北地区に教室を開設。
- 2012年7月28日

第24回チェロ全国大会を札幌市民ホールで開催。
- 2012年9月7日、9日

「サイトウ・キネン・フェスティバル松本20周年記念スペシャル・コンサート」にヴァイオリン科・チェロ科の生徒が出演。
- 2012年12月13日

永年にわたって力をふるわれた東海地区チェロ科指導者の久保田顕先生が亡くなられた。59 歳だった。
- 2013年4月1日

山田桃子先生が指導者に認定され、関西地区に教室を開設。
- 2014年4月1日

山田菜々子先生が指導者に認定され、関東地区に教室を開設。
- 2014年10月29日

第83回日本音楽コンクールチェロ部門で、佐藤 明先生クラス出身の森田啓佑さんが1位と岩谷賞（聴衆賞）を受賞。
- 2014年11月25日

チェロ科創設60周年記念公式サイトがスタート。
- 2015年3月27日

チェロ科創設60周年記念第25回チェロ全国大会を文京シビックホール大ホールで開催。
- 2015年4月1日

原力海先生が指導者に認定され、関西地区に教室を開設。
- 2015年8月30日

第13回東京音楽コンクール弦楽部門で河地正美先生クラス出身の水野優也さんが第1位および聴衆賞を受賞。
- 2015年9月1日

鈴木佳都紗先生が、准指導者に認定され、関東地区に教室を開設。
- 2015年

第69回全日本学生音楽コンクールチェロ部門大学の部で故久保田顕先生クラス出身の香月麗さん（桐朋学園大学ソリスト・ディプロマ・コース1年）が第1位を受賞。
- 2016年4月1日

喜多川 悠先生が指導者に認定され、九州地区に教室を開設。
- 2016年12月6日

第70回全日本学生音楽コンクール全国大会・チェロ部門大学の部で、宮田豊先生クラス出身の佐山裕樹さんが第1位を受賞。

「ピッコリーナ・ピッコリーノ」を開催

2006年12月には、東京八王子のいちょうホールで、スズキ・メソードのチェロ科の子どもたちによる「ピッコリーナ・ピッコリーノ」コンサートが開催されました。これは、同ホールで開催中の第1回ガスパール・カサド国際チェロ・コンクールの関連事業として、才能教育研究会の協力で行なわれたものです。約100名の子どもたちが、斉奏にソロにアンサンブルに、素敵な演奏を披露しました。コンクールの審査員の先生方も身を乗り出して、子どもたちの熱演に大きな拍手を送っていました。



若い指導者も増え、活動の充実を目標

2010年代になって、若い指導者が次々に全国の教室に着任するようになりました。11年春に札幌に着任したばかりの山田慶一先生にエールを送る形で開催されたのが、第24回チェロ全国大会（2012年7月28日・札幌市民ホール）でした。北海道では初の開催ということで、チェロ科の生徒も指導者も飛行機で、フェリーと車で、そして鉄道で全国から集まりました。前日の交流会、そして大会翌日の「体験会」と新たな教室のPRにも大きく貢献した大会となりました。



第24回チェロ全国大会（2012年、札幌）の翌日、ホテルで開かれた体験会では、子どもたちのチェロへの関心の高さが伺われました

創設60周年を記念し、第25回チェロ

2015年3月27日（金）、第25回を数えるスズキ・メソードチェロ全国大会が文京シビックホールで開催されました。会場は、バッハをこよなく愛したカザルスが1961年に来日し、400人のスズキの子どもたちの演奏に心を震わせた文京公会堂が前身だけに、実行委員会では創設60周年記念となる今回をバッハとカザルスに捧げるコンサートと位置づけました。

実行委員長の佐藤満先生は、「258名のチェロ科生徒と113名のヴァイオリン科生徒が、ステージ一杯埋め尽くし、会場が震えるほど力一杯の演奏を披露いたしました。また、堤 剛先生ならびに29名のOB・OG諸氏が、胸の熱くなる素晴らしいお祝いの演奏をお聴かせくださいました」と大きな花を添えてくださったことに、心からの感謝を表明されました。さらに「60年の歴史を振り返り、チェロ科のルーツであるカザルスとバッハへのオマージュを込めたこのコンサートを終えた今、改めて先人たちの教えと価値観を捉え直し、子どもたちの幸せと、この教育法のさらなる発展のために努力を続けてまいります」と決意を述べられています。

出身チェリストの国際的な活躍

嬉しいニュースも海外から届きました。2009年11月、パリで行なわれた第9回ロストロポーヴィチ国際チェロコンクールで、チェロ科出身の宮田大さん（23歳）が日本人として初めて優勝しました。帰国されるやいなや、季刊誌170号のインタビューで、喜びを語っていただきました。そのさわりを紹介しましょう。

「一次予選から本選まで、ちょうど10曲あり、全曲を暗譜で弾きました。ソナタや新曲はもちろん譜面を見ていいことになっていますが、見た目も暗譜の方がいいし、小さい頃からスズキ・メソード

で当たり前のように暗譜で演奏していたことが大きいと思います。（中略）スズキ・メソードの力、母と父の影響に感謝するとともに、倉田澄子先生からの『人生の中で一番いい経験ができたね』という言葉は、僕の心に響きました。今後も、お客様が想像しないアイデアで演奏したいと思っています」

その後も、BS番組でドキュメンタリーが何度も放送されたり、小澤征爾さんとの共演など、話題が豊富。今日に至るまで、精力的に国内外での演奏活動や録音活動を続けられています。



季刊誌170号のインタビュー記事より

若手チェリストたちが続々と頭角を現す

松本20周年記念スペシャル・コンサート」にヴァイオリン科生徒とともに、チェロ科生徒も出演しました。SKF総監督を務める小澤征爾さんが「松本がスズキ・メソード発祥の地であり、音楽を愛する土壌があったからこそ、私たちの音楽祭もすんなりこの地に受け入れられたのではないのでしょうか」とプログラムに書かれ、20周年記念コンサートへのスズキの子どもたちの出演を希望されたことから、演奏が実現したのです。



SKFスペシャルコンサートでは、フォーレの「エレジー」の滋味溢れるメロディと華やかな見せ場を見事に演奏した生徒たち

全国大会を、本日と同じ文京シビックホール大ホールで開催！

祝賀演奏として、堤剛さんの「鳥の歌」、森田啓佑さんのバッハの「無伴奏組曲第6番」、黒川実咲さんのシューマンの「幻想小曲集」、加藤文枝さんのショパンの「序奏と華麗なるポロネーズ」の演奏も、思い出深い選曲とともに聴衆を魅了しました。

人間で言えば、還暦を迎えたことになるチェロ科。鈴木鎮一先生をはじめ、チェロ科を創設した佐藤良雄先生や先人たちの敷かれた道筋をさらに研究し、次の世代に確実につなげてゆくことが、これからの大きな課題です。



森田啓佑さん



香月麗さん



水野優也さん

2016年12月15日
スズキ・メソッドチェロ科公式サイトスタート。

2017年10月24日
第86回日本音楽コンクールチェロ部門で故久保田顕先生クラス出身の香月麗さんが第1位と徳永賞（聴衆賞）とE・ナカミチ賞を受賞。

2018年4月4日
9年ぶりに開催された第54回スズキ・メソッドグランドコンサート。天皇・皇后両陛下（現上皇・上皇后両陛下）と高円宮久子妃殿下のご臨席を賜った両国国技館。チェロ科出身の宮田大さんのソロ演奏も披露された。

2019年11月28日～29日
チェロ科研究会において、2020年4月からのチェロ科特別講師の布陣を決定。

2020年2月11日
リサイタルシリーズ2020の第1弾として、河地正美先生クラス出身の水野優也さんのチェロ・リサイタルを東京オペラシティリサイタルホールで開催。

2020年3月7日
リサイタルシリーズ2020の第2弾、故久保田顕先生クラス出身の香月麗さんのチェロ・リサイタルは、新型コロナのため、やむなく2021年1月30日に延期することに。

2020年4月1日
特別講師を一新。長年にわたりお世話をいただいた林峰男先生から、新たに倉田澄子先生、菊地知也先生、山本裕康先生の3名にバトンタッチ。

2020年8月8日
リサイタルシリーズ2020の第3弾、佐藤明先生クラス出身の森田啓佑さんのチェロ・リサイタルは、新型コロナのため、やむなく2022年3月5日に延期することに。

2020年10月29日
第89回日本音楽コンクールチェロ部門で河地正美先生クラス出身の水野優也さん（ハンガリー国立リスト・フェレンツ音楽大学）が第1位と増沢賞（聴衆賞）を受賞。

2021年1月30日
延期されていたリサイタルシリーズ2020の第2弾、故久保田顕先生クラス出身の香月麗さんのチェロ・リサイタルは、新型コロナのため、再度2021年8月5日に延期することに。

2021年8月5日
延期されていたリサイタルシリーズ2020の第2弾、香月麗さんのチェロ・リサイタルを、東京オペラシティリサイタルホールで、ようやく開催。3度目の正直だった。

2021年
チェロ科卒業曲を改訂。

2022年3月5日
リサイタルシリーズ2020の第3弾、森田啓佑さんのチェロ・リサイタルを、東京オペラシティリサイタルホールで、ようやく開催。

2022年12月1日～2日
3年ぶりに対面でチェロ科指導者研究会。

2023年10月13日～15日
第3回国際ティーチャー・トレーナー会議を松本で初開催。

2024年
チェロ科卒業曲を改訂。研究科Cの課題曲からブラームスを削除。

2024年4月1日～2日
チェロ科の若手指導者たちによる第1回スズキチェロキャンプが、東京北区の北とびあ「カナリアホール」を中心に開催。

2024年5月1日
チェロ科創設70周年を記念する第26回チェロ全国大会を、2025年4月6日（日）に文京シビックホールで開催することを決定。

2024年11月3日
スズキ・メソッドヴァイオリン科出身で「CDの先生」こと、日本を代表するチェリストの堤剛さんが、文化勲章を受賞。

2025年2月16日
日本チェロ協会主催の「アジア・パシフィック・チェロ・コングレス2025」（サントリーホール）にチェロ科生徒たちが出演。

2025年4月6日
チェロ科創設70周年記念第26回チェロ全国大会を文京シビックホール大ホールで開催。

コロナ禍に突入

国内初の感染者が2020年1月に確認され、その後、大型クルーズ船の感染を皮切りに、私たちの生活に徐々に浸透した新型コロナウイルス。マスクが店頭から消え、東京オリンピックは延期。全国に緊急事態宣言が出され、3密の回避など、日常生活は一変しました。

スズキ・メソッドの活動も例外ではありませんでした。夏期学校だけをみても、2020年は開催を中止し、「おうち夏祭り」をオンライン開催。2021年は全プログラムをオンライン配信、2022年はハイブリッド開催を予定していたものの、直前のコロナ禍拡大により、急遽オンライン配信のみに変更。2023年は、対面とオンラインのハイブリッド開催。そして2024年は、全面的に対面での開催を人数制限を行ないながら、実施しました。まさに、コロナに翻弄された期間でしたが、指導者たちによるオンライン配信を実現したばかりでなく、毎年のようにその技術の飛躍的向上を図るなど、得られたものも大きい時期だったと言えます。

リサイタルシリーズが続々と延期に

チェロ科独自の企画として、若手チェリストたちの飛躍を大きく後押ししよう企画された「リサイタルシリーズ2020」は第1弾の水野優也さんのみ予定通り実施されたものの、続く第2弾の香月麗さん、第3弾の森田啓佑さんの各リサイタルは相次ぐ公演延期の憂き目に。奏者たち、実行委員会をはじめ、関係者の忍耐強い努力と、会場となった東京オペラシティ側の温かな心意気による全面的な協力のもと、すべての公演が終わったのは、2022年3月のことでした。



チェロ・コングレス 2025 に出演！

2025年2月16日（日）、サントリーホールで開催されたアジア・パシフィック・チェロ・コングレス2025の「チェロ・グランド・コンサート」。その第1部「ジュニア・チェロ・オーケストラ」のトップバッターとして、スズキ・メソッドのチェロ科生徒たち（約50名）が出演しました。

佐藤明先生の合図で、チェロ科指導曲集からお馴染みの8曲を披露。ウェブスターの軽快で歌心に溢れた「スケルツォ」から、一転して、瀧廉太郎の「荒城の月」へと選曲の妙もさえ、印象深いオープニングシーンとなりました。日頃の練習成果が遺憾なく発揮され、立派なステージとなりました。「あつという間だった」「そんなに大きいホールだとは思わなかった」などいろいろな感想をもった子どもたち。さらに次なる舞台が楽しみです。サントリーホール大ホールの隅々まで、スズキのサウンドがしっかりと届いていました。



特別講師に新たに3人のチェリストが着任

2019年11月28日～29日のチェロ科指導者研究会で、それまで長い間、特別講師としてチェロ科を牽引されたチェリストの林峰男先生から、2020年4月より、あらたに3名の特別講師の先生方にバトンタッチされることを決定。その予定通りに、倉田澄子先生、菊地知也先生、山本裕康先生が新たに4月から、特別講師

として着任されました。

3人の先生方からメッセージとプロフィールをいただき、チェロ科公式サイトで紹介しました。指導者研究会や夏期学校でご指導をいただくだけでなく、毎年実施されている卒業録音を通して、具体的なアドバイスをお願いしています。



倉田澄子先生

菊地知也先生

山本裕康先生

卒業課題曲の見直しを実施

前期初等科	バッハ	メヌエット 第2番
初等科	ベートーヴェン	メヌエット ト長調
中等科	ヴィヴァルディ	ソナタ 短調 第1、2楽章
前期高等科	エックレス	ソナタ ト短調 第1、2楽章
高等科	サンマルティーニ	ソナタ ト長調 全楽章
才能教育課程卒業＊	(a) ボッケリーニ	協奏曲 変ロ長調 全楽章
	(b) ハイドン	協奏曲 八長調 全楽章
研究科A＊	(a) バッハ	無伴奏チェロ組曲 第3番 全曲
	(b) バッハ＋フランクフル	無伴奏チェロ組曲 第3番 プレリュード＋ソナタ ホ長調 第1、2楽章
	(c) バッハ＋ポッパー	無伴奏チェロ組曲 第3番 プレリュード＋ハンガリアン・ラブソディ
研究科B	サン＝サーンス	協奏曲 第1番 全楽章
研究科C＊	(a) ブラームス	ソナタ 短調 全楽章
	(b) ハイドン	協奏曲 二長調 全楽章
	(c) ラロ	協奏曲 二短調 全楽章

長年、変わらなかった卒業録音の各課程卒業曲を2021年に見直しました。対象は、才能教育課程と研究科A、研究科Cです。

左の表組のように変更しました。ただし、才能教育課程の録音は、ボッケリーニの協奏曲を終了してから、ハイドンもしくはボッケリーニを選択するという条件が加わりました。＊の表示がある課程は、いずれか1つを選択します。

さらに、2024年、この表の研究科Cから、ブラームスのソナタが削除されました。

現在の研究科Cでは、ハイドンの協奏曲二長調、もしくはラロの協奏曲から1曲を選択することになります。

創設70周年記念第26回チェロ全国大会を、本日開催！

創設60周年記念第25回チェロ全国大会以来、文字通り10年ぶりの開催となるチェロ全国大会。ほとんどの生徒さんは、初めての参加となります。

藍川政隆実行委員長、名越菜々子副実行委員長のもと、いろいろなことが起こる中で、様々な準備を重ねての開催となります。

2月24日（月・振休）、国立オリンピック記念青少年総合センターリハーサル室には、大勢のチェロ科の子どもたちに加え、共演するヴァイオリン科の子どもたち、その保護者の皆様に参加され、午後にはスペースが足りなくなるくらいにヒートアップ。その中で、チェロ科の佐

藤明先生、寺田義彦先生、佐藤満先生、宮田豊先生のご指導が続き、ヴァイオリン科との共演では、ヴァイオリン科の石戸寛子先生の巧みな指揮により、ヴィヴァルディのソナタなどの練習が続きました。ピアノは、桃原知子先生が長時間にわたり、担当されました。

曲の編成により、レイアウトが大幅に変わりますので、そのたびに実行委員のチェロ科指導者の皆様で会場の椅子の並べ替えが迅速に行なわれました。

本日のコンサートでは、舞台転換の迅速さも楽しみながら、演目の数々をお楽しみください。どうぞよろしくお願いいたします。



広い練習会場も、ヴァイオリン科の皆さんも加わって、熱気がムンムン。終日、素晴らしい練習が続きました。残すは、3月30日と4月2日の練習のみ。しっかりと本番に向かいます



カザルスのDNAをイメージしたチラシなどを制作

私たちは、チェロ科創設 70 周年記念
第 26 回スズキ・メソード チェロ全国大会を応援します。

チェロ科生徒

相川 諒慈	浅田 基頼	阿部 慶	阿部 舞衣	天堀 湊	荒木 映輔	新井 遥久	在原 由葵
井口 結仁	池口 諒多	池尻 貴汰	池田 隆人	池田 稜	石黒 悠護	石田 榛信	石田 真義
磯村 泰壮	板宮 史弥	市川真美花	伊藤 斗陽	伊藤 寿人	伊藤 瑞久	稲見 浩樹	今井 絢也
上田朔太郎	上野 生葵	浮貝 泰誠	内田 雅也	内山 皓貴	内山 莉那	浦壁 司	瓜生 琴子
江尻 映水	大久保優寛	大久保幸寛	大崎 陽	大谷 昊凜	大西 紗絵	大森 樹	小笠原 響
岡本 幸樹	岡本 麻友	桶田 寛人	尾崎 杏	小澤 碧生	小野 紬	小原 安観	尾本 恵理
何 家芮	開発 響子	加賀 仁華	河西 昭英	河西 諒馬	片桐 佳大	梶田 聡	梶田はるか
鎌田 悠寛	金子 眞子	金森 周子	兼行 果穂	上村ひかり	川崎 史織	川田 悠喜	川原 紫響
河本 雄大	北川 祐帆	来田 ハル	来田 ルカ	杵渕佐英子	木村 春彦	金 周夏	熊谷 康生
黒木 葉月	黒澤 馨	廣渡 楓	合田 礼人	河野 絃音	郷原 悠輝	洪 美雨	古賀 晶太
小坂 奏斗	後藤千代子	後藤 紡	後藤麟太郎	小西陽茉莉	今野 泰地	坂井 映亮	坂井 律月
坂井義之介	佐藤 亜胡	佐藤 文道	佐藤 悠道	塩野 道玄	潮見 理奈	志儀 文	芝田 琴
柴田 翔太	柴田 夏輝	柴田 悠花	志村 泰知	清水 恵	清水 理生	城谷 隼佑	新 あかり
新 こはる	新 史翔	新 巳喜男	杉浦 優介	杉本 美和	鈴木 瑞美	鈴木 優就	鈴木 佑弦
須田 志乃	隈本 香凜	千 陽花	高辻 音羽	高橋さくら	高橋 結子	高橋裕次郎	高宮 冬青
高村 奏太	竹内 碧	武内 文	武内 司	武内 円	竹平 和生	武末 志秀	田島 玉恵
田中 美帆	塚尾 すず	塚尾 拓真	塚越 美羽	辻野まなカロリナ	辻野 仁子	寺崎 圭杜	徳田安須嘉
富永 葵	中川 璃人	中野 龍	中村 幸生	中村 咲良	中村 翠	永井悠一朗	西田 英司
西田 光希	野口 創司	野里 郁博	野村 昊未	橋本 賢斗	服部 政成	濱口 智輝	原沢慎之介
林 奏佑	林 珠子	林 佑弦	原 玄晴	原 実史	原 周史	原 直史	彦坂ちえり
平林 永伍	福田 紘大	福田 修也	藤井 真奏	藤村 晴也	深谷 真	二神 彩月	星埜 紘海
堀田すみれ	正岡 直幸	増谷 州哉	梶田 真貴	間中 大	松浦 希	松本 考平	松本 陽子
松山 和樹	馬淵 泰樹	三上 奎銘	水上 朝陽	水田 至音	水谷 朱里	皆川幸太郎	宮崎 新
宮崎 世梨	宮澤 朋由	宮澤 尚正	宮澤 悠仁	向井 紗愛	村田 光	村野 優希	村山 智
室田 悠貴	本橋 堯	元松 穂	百瀬 勇矢	森下哉太郎	森林 櫻	森林 祥	矢取 沙織
柳澤 一颯	柳沢 祐希	梁島あかり	山崎さくら	山崎しずく	山下 有弥	山下寧音楽	山田 一喜
山田 遥奈	山本 仰	横山 実桜	吉井 莉菜	吉田 紫音	吉村 緋真	吉村 椋	劉 叡琳
若杉 拓也	渡邊 慧	渡辺 晃永	渡邊 志帆	渡邊 琴木	渡邊 寛久	渡部山下ロベルトカズオ	

株式会社黒澤楽器店 クロサワバイオリン
株式会社白川総業
株式会社ミュージックプラザ
岩崎工房
弦楽器工房かわばた
有限会社ゴーシュ弦楽器

有限会社下倉バイオリン社
スズキ・メソード幼児教育研究会
鈴木バイオリン製造株式会社
有限会社弦楽器タニカワ
スズキ・メソード OB・OG 会
宮チェロ

藍川 明子	藍川 真琴	石川 咲子	石川 滋	石川 嘉一	伊藤 康之
印田 礼二	上野 達弘	江口 心一	遠藤 真理	大島誠一郎	小原 毅也
加藤 典子	川沼 顕	河地 正美	川手 由紀	北沢加奈子	倉田 澄子
齋藤あかね	笹森 壮大	佐藤 明	佐藤 朋子	佐藤 満	佐藤 康光
重松 次郎昌幸	篠崎 敏子	鈴木伊砂子	すわやまクリニック	関 幸枝	高田 綾
タケカワユキヒデ	谷 晶代	寺田 悠介	寺田 雅美	東京チェロアンサンブル	中島 顕
名越 菜々子	松山富貴子	松井 直樹	松井やすよ	宮坂 勝之	宮澤 博子
室野 良史	森 育雄	守田千恵子	守屋 栄	安田 廣務	有限会社弦楽器グレイス
横田 妙子					

スズキ・メソード OB・OG 会 (有志)
スズキ・メソード 鎌倉
スズキ・メソード 河地正美クラス母の会
スズキ・メソード 川沼顕クラス
スズキ・メソード 関東地区三科指導者会
スズキ・メソード 関東地区渋谷ブロック
スズキ・メソード 北多摩
スズキ・メソード 吉祥寺センター教室
スズキ・メソード 神戸・北大阪 原クラス
スズキ・メソード 佐藤明チェロ教室一同
スズキ・メソード 佐藤満保護者会
スズキ・メソード 自由が丘教室
スズキ・メソード 湘南センター

スズキ・メソード 鈴木佳都紗クラス
スズキ・メソード 聖蹟桜ヶ丘センター支部
スズキ・メソード 多摩ニュータウン支部
スズキ・メソード チェロ科 北沢加奈子クラス
スズキ・メソード チェロ寺田クラス
スズキ・メソード 塚尾桃子クラス
スズキ・メソード トウインクル音楽院 (旧品川支部)
スズキ・メソード 東海地区三科指導者会一同
スズキ・メソード 東急支部
スズキ・メソード 中島顕クラス
スズキ・メソード 中島・小澤クラスドリームチーム一同
スズキ・メソード 名越菜々子クラス
スズキ・メソード 北海道地区 山田慶一クラス

チェロ科創設 70 周年記念 第 26 回スズキ・メソード チェロ全国大会は、
上記の企業・団体の皆様、OB・OG、個人の皆様方にご支援をいただきました。ありがとうございました。

CONCERT STAFF コンサートスタッフ

■大会組織委員長 早野 龍五

■実行委員長 藍川 政隆

■実行副委員長 名越菜々子

■実行委員 臼井 洋治 河地 正美 佐藤 明 佐藤 満

鈴木佳都紗 鈴木真柚子 寺田 義彦 宮田 豊

■演奏指揮 石戸 寛子 佐藤 明 佐藤 満 寺田 義彦

宮田 豊

■映像演出オペレート・撮影 川沼 顕 松永 朋子

■編集・デザイン・公式サイト制作・撮影 新 巳喜男

■チェロ科

伊藤 岳雄 井上 弘之 小澤由季野 川手 由紀

喜多川 悠 北沢加奈子 塚尾 桃子 中島 顕

長瀬 冬嵐 原 香恋 原 力海 廣岡 直城

森田 健二 山田 慶一

■ヴァイオリン科

石戸 寛子 小川みよ子

■ピアノ科

鈴木 祐子

その他、スズキ・メソードの先生方と事務局の皆様

海外チェロ科生徒

吳 詠怡 Catherine Ng 呂 欣家 Lucia Lu 朱 苡均 Olivia Zhu 殷 紅翔 Ursula Yin

チェロ科 OB・OG

藍川 真琴	浅田 頼和	阿部有佑子	井口 大輔	伊藤 雄介	斎藤孝太郎	江村 出	鈴木淳一郎
木幡真理子	木幡美智子	グレイ・理沙	柴田 敦史	柴田 哲郎	水谷 桜	本橋 裕	吉田 穂

ヴァイオリン科生徒

池田 清花	宇田川佐月	大塚 ゆず	金子 泰己	草柳 琉仁	國守 謙	酒井みちる	坂中とき乃
坂中 美心	坂山 夏凜	佐藤 楓一	鈴木 杏奈	鈴木 惺詠	鈴木 亮輔	早田 莉真	高島 藍里
タトロック珠理	長坂 光 (Va)	中村真悠子	長屋茉莉子	肥田あかね	二神 彩雪	星埜 湊成	増谷 安奈
松崎優希奈	松下 裕哉	松本 二美	三島 万穂	水野 悠人	皆川 葵郁	三輪はるか	山口 真澄
山田 美紗 (Va)	山本 弘毅	山本 義弘	渡辺 澄				

(Va) はヴィオラで出演

賛助出演

青田はるな	五十嵐佳以	池田 玲子	河上さおり	木村 太一	後藤 裕乃	佐藤 朋子	多田 恵理	舘石奈未子
中陳 伸子	西川 由華	西村 英恵	根岸 彩和	福田 優史	星 めぐみ	増谷 夏葵	谷口 和恵	吉永 美佳